

｜令和2年度｜

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

は じ め に

2020年度はびわ湖ホールにとって、非常に難しい1年でした。

コロナの収束が見通せず、厳しい財団運営を余儀なくされていますが、こういう閉塞感、ときにはいら立ってしまうような時こそ、舞台芸術をお届けし続けるのが、公立劇場の使命ではないかと思っております。こういう強い思いから、また幸いにも、非常事態宣言に本県が外れておりましたことから、年末のジルベスターコンサートから、客席を100%の入場率に戻して、自主事業についてはほぼ通常通りの事業を展開しているところです。

こうしたコロナ禍において、劇場サポーターの皆さまが、再開した自主公演にお客様として来ていただいていることは何より心強いことであり、笑顔でお声がけくださることに感謝しております。改めて、劇場サポーターをはじめ、多くの皆さまにびわ湖ホールが支えられていることを実感しているところです。

今後もびわ湖ホールでは、コロナ対策を徹底しながら、公演を続けて参ります。高い換気性能を備えた、お客様にとって安心安全な空間ですので、皆さまお誘いの上、舞台芸術を楽しんでいただければ幸いです。また、どうしてもご心配な方におかれては、菊池寛賞、関西元気文化圏賞、ミュージックペンクラブ音楽賞と立て続けに高い評価をいただいたオンライン配信を、昨年11月のマタイ受難曲から行っていますので、ぜひご利用いただければと思っています。

劇場サポーターの皆さまには、サポーター制度の特典や講座など、様々な機会をフル活用し、上質な舞台芸術の魅力を存分に楽しんでもいただきたいと思います。そして、ご家族・ご友人など一人でも多くの方々へその魅力をお伝えいただき、引き続きびわ湖ホールをご支援いただけますと嬉しい限りです。

令和3年3月

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
館 長 山 中 隆



目 次

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告	1
2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要	38
2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要	39
2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱	40
2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳	41
2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」活動の様子	42

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告

期別（順不同）

文責：びわ湖ホール劇場サポーター

びわ湖ホール劇場サポーター令和2年度活動報告

第23期 相田 一雄

令和2年度の劇場サポーター活動は、新型コロナウイルス感染第2波が急激な高まりをみせ、政府が全国緊急事態宣言を発令している最中、全国の劇場は既に3月から予定していた劇場公演のほとんどすべてを公演中止にし、劇場そのものが休館の状況でスタートすることになった。

びわ湖ホールでは3月上旬に公演を予定していた自主プロデュースオペラ『神々の黄昏』の舞台を無観客で公演し、それをWEBで無料ライブオンライン配信するといった“コロナ禍での新たな公演スタイル”のチャレンジが行われたものの、その後の公演はすべて中止され7月中旬まで休館だった。

私自身は、地元の合唱団に所属していて、所属合唱団の団員、そして京都地区、奈良地区、高槻・茨木地区、大阪地区、尼崎・伊丹地区、神戸地区、明石・加古川地区の合唱団の仲間との交流の中で、これまでびわ湖ホールの公演案内・情宣・誘いを行い、またそれらの人たちにお願いして各合唱団の団員への公演案内・情宣もしてもらってきたが、今年度のコロナ禍では、各合唱団とも活動停止状態で、また外出自粛から私が出かけて行ってこの音楽仲間達と会い交流することができなかった。

そのため交流音楽仲間とは、7月以降メールで案内を行い、毎月送っていただいている「びわ湖ホール Stage」とチラシは郵送料負担と団活動停止の関係で、各人へは数部の個別郵送を行ったが、各合唱団での配布部数を郵送するまではしなかった。

余った「Stage」とチラシは、私の居住する町のJR駅構内の有料チラシ立てに置かせてもらったのですが、持ち帰る人の数は少なかったです。チラシを持ち帰ってもらおうとすると、大きなポスターを張って、そのポスターの下にチラシを置く方法が一番持ち帰りが多いというのが私の過去の仕事での経験から導かれた方法です。現在はチラシは音楽好きの人の集まるところに配置して持ち帰ってもらい、街中では、Attentionを促す魅力的なポスターからスマホでホールURLへ導く広報が効果的です。

メールでの情宣案内は、びわ湖ホールさんから毎月メールされる「びわ湖ホール Information」を加工して、私の言葉による案内推奨文をInformationに記されたURLに添えることで、直接びわ湖ホールのHPへアクセスしてもらえて、チケット購入へと誘いがうまいといったようです。

7月の日本合唱音楽セレクション、8月の「美しい日本の歌」、マラー4番、10月の「モンセラートの朱い本」では私の大学グリーの後輩がオンステするので関西地区のOBやゼミの先輩を動員、11月のマタイ受難曲、1月の魔笛、2月のメーリさんのソロリサイタルには私からのメールとラインによる情宣で所属合唱団の面々や関西の合唱仲間がホールに来てくれました。みんなホール音楽に飢えていたので、とても喜んでくれました。7、8月の合唱公演では久しぶりの声の響きに涙が出た、とか10月の古楽公演ではスペインの歌謡が伝わり上機嫌で帰宅できた、とかメーリさんのソロリサイタルではStanding Ovationと6曲ものアンコールに驚き大感激したとの感想が届くなど、暗く鬱陶しいコロナ禍の中で、びわ湖ホールに足を運んだことで心が癒され明日への活力をもらえた、と喜んでもらえたことが、「ああ お誘いして良かった!」と思えた1年でした。3月「ローエングリン」と「四大テノール」と「日本合唱音楽古典」もお誘いしてます。きっと喜んでもらえると思います。

コロナ禍の中で

23 期 青木加恵子

本当に新型コロナ騒ぎに振り回された一年でした。
びわ湖ホール**の 2020 年**の一大イベントの「神々の黄昏」
いつもなら、ゼミ、ゲネプロを通じて徐々に気持ちも盛り上がっていくところでしたが、無観客オンライン公演と成ってしまいました。
携わっていた人達の無念さを思うと、たまりませんでした、
世界中で **40 万人**以上の視聴があったとのこと、少しは胸をなでおろしました。

その後も公演の中止、延期が続いて、勧めていた友人達へチケットの返却、返金におわれました。

そうこうするうちに、私の中で何か強く惹きつけられていた糸が断ち切られた感じがして、予約しても又中止かな？と暗い気持ちになってしまいました。
あんなに通っていたホールにも昨年は足が向かなかったです。

さて今年は、といっても肝心のコロナの収束が見込めない中、私自身の参加も、友人達に勧誘するのもためらってしまいます。

折角 **3 年間**のびわ湖ホールとお付き合いで、心豊かな時間をいただきましたので、それは続いて行って欲しいのですが、今は、私とびわ湖ホールの付き合い方の新しい形を模索しているところです。

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告

第 23 期 梅本顕宏

今年度は3年目の劇場サポーターとしての活動でした。

今年度の活動状況は以下のとおりです。

2020 年度

8 月 4 日～6 日 沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅥ

8 月 10 日 びわ湖ホール声楽アンサンブル 美しい日本の歌

8 月 23 日 沼尻竜典×京都市交響楽団 マーラー 交響曲第 4 番

12 月 6 日 びわ湖ホール名曲コンサート 華麗なるオーケストラの世界

12 月 26 日 特別講座

3 月 2 日 オペラ「ローエングリン」ゲネプロ

3 月 7 日 オペラ「ローエングリン」

2020 年度はコロナの影響もあり、活動が少なくなりました。

しかし、このような時期だからこそ、SNS を活用しながら活動を続けていきたいと思っています。

短文ではございますが、活動状況をご報告します。

これからもどうぞよろしくお願いします。

成長したなあ。「ミミ役」ってなんのことか分かった。(活動報告3年目)

23期 老邑智子

朝の連ドラを観ていると、主人公がラボエームのミミ役に応募する話がありました。びわ湖ホールオペラ映画鑑賞で観ていたもので、すぐに分かりました。「わあ～、知ってる。」と、3年前のオペラとは縁のなかった自分から、ずいぶん成長したと、嬉しくなりました。

今年度は、コロナ禍で公演、講座、サポーターの活動等いろいろ中止になりました。久しぶりにコンサートに行けたのが7月の清塚信也と関フィルのコンサートです。曲目を変更し、席はお隣を空けてのゆったり。開催に向けて工夫して下さったのだなあと思いました。

秋には、バッハのマタイ受難曲がオンラインで有料配信。初めての試み。参加せねばと、初めて、オンライン配信をネットで購入。せっかくだから、すこしでも大きい画面でとPCとTVを線でつなぎました。ライブで機嫌よく聴いていたのですが、マタイは長い。うとうと寝てしまい、勉強会で教えていただいた聴きどころを逃してしまいました。有難いことに、アーカイブで聴き直し、オンラインの便利さを実感しました。

1月には、オペラ「魔笛」。ワクワク楽しい反面、なんとなくもやもやと不安でした。12月の特別講座で、感染しないように、演じる人はすごく努力していることや、舞台での工夫を聞き、不安が和らぎました。公演前に、サポーターの方の「観客としてできること」をらくらく連絡網で読んで、力強く感じ、当日は、開演に先立っての挨拶で劇場の換気がすぐれていることを聞き、落ち着いて舞台を観ることができました。

10月31日のサロンが対策をとって再開され、12月13日には、定例会も始まり参加させていただきました。ローエングリンのオペラ等の講座に出席できたことも嬉しく思いました。

コロナ禍での自粛期間中、らくらく連絡網で、びわ湖ホールを始め神社仏閣等の素敵な写真を見せて頂いたり、消毒の仕方を学べたり、出かけてもよさそうな自然豊かなところを教えて頂いたり、サポーター間の交流の有難さを感じました。

チラシは、ご近所のお願いしているいつものお宅へ配布させていただきました。一時、枚数が少なくなり内容も公演中止の時は、寂しく感じました。が、再開や、オンラインで有料配信もチラシで知ることができ、他の人もそれを感じて下さったのではないかと思います。

3年目のこの一年は、オペラを観に、演奏を聴きに、びわ湖ホールへ行ける幸せを再確認しました。オンライン配信を購入と、時代について行かなくてはと思ったり、サポーター間のつながりの有難さを感じたりしました。

子育てが一段落し縁遠くなっていたびわ湖ホールに、今は自分のために通うようになり世界が広がりました。いろいろな事に参加させていただき有難うございました。

「サポーター3年目を振り返って」

23 期 大石文代

世界中が新型コロナウイルス感染拡大で翻弄され、びわ湖ホールにも影響し公演やサポーター活動の中止や延期で、とても残念な一年でした。

サポーター活動はびわ湖ホールから送っていただいた情報誌を配布したり、知人に「神々の黄昏」のブルーレイやインターネット配信があることを紹介しました。

サポーター活動が思うように出来ない中「らくらく連絡網」で、サポーターの方々からいろいろな情報を配信していただき、知識が増し励みにもなりました。

びわ湖ホールの存在の大きさを思うと共に、皆さんと楽しみを共有できる喜びや、舞台芸術鑑賞で心が豊かになる時間の大切さを実感しております。1日も早く安心してびわ湖ホールに足を運べる日が来ることを願うばかりです。

2020 年度 びわこホール劇場サポーター活動報告

第 23 期 末 淳子

劇場サポーター3 年目の今年度は活動、鑑賞（及び自分の演奏活動）すべてに渡り新型コロナウイルスに大きな影響を受けた一年となりました。

上半期は近江の春音楽祭をはじめ楽しみにしていた公演・講座もほとんど中止、そうこうしているうちにプライベートでも実母の死去や自分自身の体調不良が重なり、下半期に企画いただいた見学会や講座も出席することが叶わない状況となりました。

そんな中でも世界同時配信された「神々の黄昏」に感動・インスパイアされ、またも私案「大五郎≡ジークフリート」をハルモニアに投稿しました。

毎月送付される広報物（Stage 他）は、引き続きも地元の公民館に置いてもらっておりませんが、加えて自宅マンション自治会の掲示板に毎月掲示を許可されて張り出しています。

サポーターも 3 年目でひとつの区切りと考え、自分の体調と相談した結果、参加していた定例会グループを辞去することといたしました。

広報活動等は今後も地道に自分のペースで継続していくつもりです。

令和2年度を振り返って

「近江の春」コンサートを選んでいる最中、「神々の黄昏」中止の報でした。3年間「指環」を追い、どう終焉を迎えるか興味津々だっただけにショックでした。でも、全世界への配信素晴らしかったと思います。因みに私はヴォータンのファンです。

コロナで色々なことが失われた中、二塚直紀氏の急逝を知り、1月の「こうもり」を懐かしみました。

秋になり、やっと少しずつ回復、久しぶりのコンサートは田中正也氏のピアノ。小ホール、間引きされた、静かな観客を前に、氏はステージの後方から遠慮がちに、でも微笑みながら語りかけて下さり、'世界を旅する'演奏を響かせて下さいました。

年が明け「魔笛」、オーケストラが鳴った瞬間、音の振動を肌で感じました。モーツァルトの煌めく音の世界。飛沫を避けるため演出苦労されたと伺いましたが、楽しい舞台でした。背景も素敵でした。

久々の膳所、百貨店もヤマダ屋さんも無くなりました。コロナ禍でも働いていらっしゃる方、傷つかれた方々に心から応援したく思います。次は山下洋輔ビッグバンド、このステージに訪れるのは3回目、音の洪水に酔いたいと思います。

「サポーターって楽しいよ」と誘われて3年目、今年度は自粛生活でメールに入るニュースを読むだけでした。

新聞や広報でびわこホールの記事をよく見ます。ホールの益々の発展を願います。

「魔笛」の後、この感情を口に出したい、誰かと分かち合いたいと思い乍ら、一人で家路に向かいました。次年度こそ、人と人とのナマの繋がりが復活することを祈ります。

2月12日 23期 長田由美子

活動記録

活動記録といっても2020年はコロナ禍の影響で一度もびわ湖ホールには足を運びませんでした。

びわ湖ホールの演目自体も延期や中止が相次ぐ中ようやく再開されました。私は吹奏楽の演奏会が好きで、龍谷大学吹奏楽部の定期演奏会の開催知ったときは久しぶりに気持ち動きましたが、結局、コロナの感染が怖くホールには足向けませんでした。また、このサポーターになった後にいろいろ見分を広めたいと初めて観覧した狂言にも、結局行きませんでした。

サポーターの会合にもご連絡はいただきましても予定を見るだけで一度も参加せず、個人的に参加している合唱団の練習も再開はしているものの、こちらも練習を欠席している始末です。

活動といっても送ってもらうチラシを配布するぐらいしか役立っていません。大変申し訳なく思っています。

今年度（2021年度）はコロナ禍が少しは落ち着いてくれることを願っております。

最後にありがたいことに YouTube でびわ湖ホールの公演を配信してくださっていますので、それを観覧しすこしでも芸術に触れるようにはしております。

23 期 西見昭二

びわ湖ホール劇場サポーター 3 年目を振り返って

23 期 服部 由美子

サポーターになって早 3 年目が過ぎようとしています。私にとって印象深かったのはやはり『神々の黄昏』の無観客ライブ配信でした。(前年度の事ですみません)

全ワーグナー・ゼミナールも参加させていただき、後は公演を待つばかり・・・そんな矢先に新型コロナという思いもかけない悪魔が忍び寄ってきました。

まさか公演中止なんて!?!とびわ湖ホールのHPを見ては「あゝ良かった!」と胸を撫で下ろした毎日。ついに中止のメールが来たときは奈落の底に落ちた気分でした。

この残念さ、悔しさは今思い出しても言葉で言い表せません。わずかサポーター歴 2 年の私でさえこれですから作品に関わってこられた皆さんのお気持ちは如何ばかりだったことでしょう。それから数日後の YouTube での無観客ライブ配信のお知らせは暗闇に一筋の光が射したようでした。

配信当日は片時も見逃したくないと全ての用事を済ませ、対訳と Twitter を見ながらの大忙し、世界中のつぶやきに共感しながらカーテンコールで「ブラボー!!」の声を届けられなかった悔しさは言うまでもありませんが、2 日間無事観終えた充実感は今まで感じたことのないものでした。関係者の皆さんの英断にただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。

その後の私は心の空白を埋めるかのようにほぼ毎日 MET やその他の劇場の無料配信を観て過ごしました。時には真夜中にも・・・今考えれば本当に不思議な気がします。

多い時は毎週通っていたびわ湖ホールがとても遠い場所になっていました。サポーターとして皆で集まることもホールを応援することも出来なくなっていました。

8 月より感染対策をとって少しずつ再開されたコンサート、サポーター講座は不安な日常を忘れさせてくれる大切な時間です。久しぶりのオペラ『魔笛』を観た時やはりオペラは生がいいと感じた方も多かったと思います。今は『ローエングリン』の上演を心待ちにしています。

来年度どんな活動が出来るか想像が付きません。当たり前の日常はもうしばらく戻ってこないのかもしれませんが。サポーター活動が出来ることに感謝しつつ、これからもびわ湖ホールの素晴らしさを伝えて行ければと思っています。

公演の広報：毎月自宅に届く公演チラシを親密先に配布依頼。

京都市下京区オペラ視聴限定の会員制ワインバー

京都市中京区のクラシック音楽視聴限定のカフェ 以上クラシック音楽。

大阪府北摂のジャズライブカフェ 大津市浜大津周辺のジャズライブ会場・
ライブ飲食店 4 軒のうち 2 軒 以上ジャズ。

普及啓蒙活動：SNS Facebook への投稿

びわ湖ホール公式 Facebook を自分のタイムラインでのシェアと

Facebook グループ「クラシックを聴こう!」(会員数 23 万人)への節度ある
投稿を重ねてコアなクラシック音楽ファンに対するアピール。

自己研鑽：研修・セミナーに参加、舞台芸術鑑賞は「サポーター視点」で。

2020 年 1 月「こうもり」KHP、梅芸「チェス」。

2020 年 2 月 ワーグナーゼミナール上級編に 2 回、定例会。

2020 年 12 月 定例会

2021 年 1 月 北摂の有力店に「山下洋輔」PR を依頼。

「魔笛」ゲネプロ、「魔笛」本番。

2020 年 2 月 ワーグナーゼミナール上級編に 3 回、

新人募集説明会に 3 回参加、1 回説明、2 回陪席。

定例会「ローエングリン勉強会」。

随時：各劇場の営業担当者と意見交換、宝塚大劇場・梅芸・京都コンサートホール

劇場サポーターとして3年目を迎えましたが、この1年は前代未聞のパンデミックの事態となり、公演はもとより活動自体が自粛せざるを得ないこととなってしまう、仕方ないこととはいえ、残念な年となりました。

このような中でしたが、サポーター3年目を振り返ってみることにします。

1. 広報・PR活動

引き続き、知り合いの病院に置いていただきました。従来は、友人と会う時や集まりにいくときには、『stage』などで情報発信やPRをしてきましたが、こちらも行動自粛のため、残念ながらほとんどできませんでした。

2. 講座・セミナーの受講

毎年楽しみにしている専門家による基礎講座・特別講座も、特に前半は中止となりましたが、秋口より再開され、特に、オペラ演出家の中村敬一氏による特別講座でのお話は、ニューノーマルでの公演のあり方を考える上で興味深いものでした。1月の同氏演出の魔笛公演を観る上でもたいへん参考になりました。

このような中であって、オペラ公演（ローエングリン）についてのプレトークや各種講座は、今年もたいへん充実したプログラムで、ほとんど参加させていただきました。

しかしながら、これらのことが緊急事態宣言による自粛により、PR活動へと展開できなかったのが返す返すも残念でした。

また、これまで予定が合わず行けなかった『まるっとステージツアー』に初めて参加して、それまで知ってはいたこととはいえ、実際にスタッフの方の説明を聞いて「体験」してみても、ホール自体のことを改めて知ることができました。サポーターとしては、もっと早く参加しておくべきであったことを反省するとともに、今後このツアーのこともPRしてみたいと強く思いました。

3. サポーター交流

ハルモニアのグループに所属しておりますが、このコロナ禍にあって、サポーターはもとより、ホール関係者の方々のご協力によって、秋号（45号）を無事発行することができました。

われらサポーター25期の新しいメンバー、びわ湖ホール声楽アンサンブルの新メンバーやホールスタッフの方々などの紹介ができたことやサポーターの自粛下での音楽をはじめとした芸術の楽しみ方などの記事で、少しは潤滑油的な役割を果たすことができたものと思っています。

今年は自粛一色といってもよい一年でありましたが、来年度も再開されるにしてもニューノーマルでのものとなることでしょう。そういった中でのサポーターとしての活動も模索しながら進めての行くことになるとは思われますが、引き続き、びわ湖ホールファンの拡大に少しでも貢献できればと思っています。

劇場は不要不急

23期 松田 左江子

2017年、宮本亜門氏演出のミュージカルに出演する友人に会うため、びわ湖ホールへ行った。

彼は、現役で役者を続ける数少ない大学の同期生。歌ったり踊ったり舞台上で輝く姿や楽屋での若々しい姿をみると、誇らしくまた妬ましかった。そして私も私なりの立場でまた劇場との関わりが欲しくなった。その翌年、びわ湖ホールの劇場サポーターへ応募したのは自然なことだったと思う。

あれから数年後、世の中はがらりと変わり、世界の人々の価値観が変わって行く。娯楽やスポーツ、それよりもまず健康だと。健康でなければ娯楽もスポーツも楽しめないのだと。舞台、映画館、スタジアム…すべての「劇場」から人が消え、そこは不要不急となった。

この事実は、特に大病を患う人や持病で悩む人にとってはそもそも当たり前のことだろう。しかしそれを受け入れられない人もいる、特に劇場で働く人にとってはそうだろう。

そんな時、私のバレエ時代の恩師で現在は演劇の舞台制作に携わる彼女は、自身が手掛ける舞台を、一日 10 公演(一回の公演につき観客は 1 家族まで)を 2 日間やってのけた。演者にとってもスタッフにとっても鬼のようなスケジュールだったろう。しかし究極の感染防止対策だと思う。中止にはしない、だからと言って一か八かでやるのでも無観客でもない。「観たい、でも心配、、」そんな心理の観客に、出来るだけ心配の少ない状況で自分たちのパフォーマンスを観てもらいたい！という意地にも近い愛情が感じられて、どちらかと言うと中止派の私もいいね！だった。困難とうまく付き合うとはこういうことかな、と考えさせられた。

先日、用事ついでにびわ湖ホールに立ち寄った。ガランとした空間のベンチで、例の大学同期のことを思い出した。「綺麗な場所だね、また来るよ、観に来てね」と言っていた。その実現を心から望む。

その時は私も劇場サポーターとしてバリバリ活動していたいな。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

23期 安本 昌 憲

1. 1年間の活動報告

① 舞台芸術愛好の輪を広げる活動

ほぼ1年間コロナ禍のため、新しいメンバーの人達も含めて一度もお目にかかることなく過ぎていきました。また、ハイキング、クリスマス会等もなく残念でした。

② びわ湖ホールの魅力を広める活動

自宅マンションのロビーの広報掲載ボックスにパンフレットなどを配布しているのですが、今年はほとんどなくなっていました。

公演中止や無観客公演もあり仕方ないのですが、最近は鑑賞できるようになっているので、少しずつ持って行ってもらえるようになるといいなと思います。

③ びわ湖ホールや舞台芸術について学ぶ活動

時間の都合のつく時は、オペラのゲネプロや公演関連の講座を受講しました。参加するたびに発見があり、舞台芸術の知識と関心を深められてよかったです。

④ ボランティア活動に参加する活動

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」のボランティアに参加を申し込んでいたのですが、コロナ禍で中止となり残念でした。来年度は、ボランティアに参加し、公演もみたいと思います。

2. 感 想

公演について、事前に学ばせてもらっているのですが、まだまだ奥が深いと感じています。以前と比べて、見え方・感じ方が変わりました。

3. 今後について

サポーターとなり3年間で瞬く間に過ぎていきました。
今後も引き続き、できる貢献をしたいと思います。

オペラ・ロス

～2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」活動報告～

第23期 山本克也

●活動内容

○私が会長をしています自治会内全9世帯に、びわ湖ホールの冊子・Stageを毎月1回配布しました。
○フェイスブックのびわ湖ホールからの情報をほぼ全てシェア（共有）し、私の友達（600人足らず）と友達の友達に広めるように努めました。

○講座受講：

□オペラ講座「ローエングリン」（初級編・全3回）2021、講師：東条 碩夫（音楽評論家）

・第2回 ローエングリンとは何者？、2021年1月17日（日）14:30～16:30

・第3回 ロマンティック・オペラの音楽の真髄、2021年1月24日（日）14:30～16:30

□ワーグナー・ゼミナール（上級編／全3回）

・第1回 2021年2月6日（土）14:00～16:45、オーケストレーションから見る『ローエングリン』、
講師：岡田 安樹浩（国立音楽大学講師/音楽学）

・第3回 2021年2月21日（日）14:00～16:45、作品の全体像とその思想的背景、
講師：藤野 一夫（神戸大学大学院教授/音楽文化論・文化政策）

○鑑賞：

・公演名：『こうもり』びわ湖ホール オペラへの招待、 開催日：2020年1月11日（土）

・公演名：ワーグナー作曲『神々の黄昏』（全3幕）びわ湖ホール プロデュースオペラ、
開催日：2020年3月7日（土）（YouTube 配信鑑賞）

・公演名：ワーグナー作曲 歌劇『ローエングリン』（全3幕）びわ湖ホール プロデュースオペラ、
開催日：2021年3月6日（土）（鑑賞予定）

●活動の成果

・『神々の黄昏』YouTube 配信の際には、国内外のフェイスブックの友達に知らせることができたので、オペラやクラシックが趣味の友達だけでなく、それまでオペラを鑑賞したことがない友達も数人鑑賞したことをあとで聞いた。

・コロナ禍で自治会内の回覧、配布は難しく4、5月は一切の回覧、配布を停止したが、6月頃から毎月「びわ湖ホールの冊子・Stage」を配布を再開し、現在に至っている。

●感想

・オペラを観だしてから20年近く、毎年、数公演観て来ましたが、昨年の2月以降全く観ておらず、オペラ・ロスです。そうした中、3月のローエングリンは、通常と異なる形式だとしても、楽しみにしています。講座も、中には知識不足であまり理解できないときもありますが、その分、好奇心が湧いてきます。3月のローエングリン楽しみです。

●反省点

・オペラを生で観賞することができなかった時間をオペラを学ぶ時間にしても良かったと思います。

●今後の抱負

びわ湖ホールで開催される KEIBUN 第九やジルヴェスター・コンサートが来年度開催されるのであれば、合唱ができる喜びを噛みしめて、精一杯練習をし、歌いたいです。びわ湖ホールでのオペラも観ます。狂言や文楽も鑑賞しますが、先日、久しぶりに能を鑑賞し、興味を持つようになりましたので、びわ湖ホールで、それらの古典芸能の公演がされるのであれば、鑑賞したいと思います。また、オペラだけでなく、それら古典芸能の公演なども「友達」に知らせて、興味を持ってもらい、びわ湖ホールに訪れてもらいたいです。

以上

○ベートーベン生誕250年イヤー

毎年、次年度の講座やコンサートの案内が配られる時期になると、どんなイベントが企画されるのかワクワクしている。今年は、「ベートーベンイヤー」と聞いて、とても喜んだ、のもつかの間、ほとんどのコンサートや講座が中止になってしまった。私にとって、ベートーベンの交響曲は、仕事をがんばれるエネルギーのようなものだった。(若かったときは4番が頭の中で流れていることが多かった。)

今年はいろいろな人がベートーベンの曲の作り方や曲の中で聞き手を引き付ける隠されたテクニックを語っているテレビの番組も多かったが、難しい理論抜きで交響曲に惹きつけられる。特に、1番、2番、8番はとても明るくリズムカルで楽しい。半面、3番「エロイカ」について、長年ややもやした思いを持っていた。コンサートでの演奏で、むちゃくちゃな演奏をされ気持ち悪くなった体験をして大嫌いになった。この思いをサポート者のみなさんに聞いてもらえる機会がありちょっとすっきりした。サポーターに入ってよかったと感じたことだった。(今では、気に入っている。)

○幻の近江の春、今年のテーマは「フィデリオ」だった

初めて生のオペラを見たのはベルリンからやってきた「フィデリオ」だった。前から2番目の特等席、大迫力の演奏や大合唱にオペラの素晴らしさを実感したものだった。40年ほど前のこと。4重唱とはどんな曲？今一度フィデリオのCDを引っ張り出して聴いてみるとやっぱり音がどんどん重なっていき素敵だ。今年は、どの演目を聞きに行こうか「近江の春」の届いたパンフレットを楽しみに選んでいた。うまく組み合わせてボランティアにも参加できればと思っていたが、幻になってしまった。スタッフや演奏家の皆さんの悔しさはいかほどだっただろう。夏になり、少しずつ上演が再開されたのはとてもうれしかった。次の機会には、また、ボランティアにも参加していきたいと思う。

○ホールの響き

今年度、ホールが再開して初めて藤木さんのコンサートに行った。カウンターテナーの声の不思議な質感に初めは違和感を覚えたが、聴いているうちにホールのやわらかい響きと溶け合って素敵な空間になっているのを感じた。やはりホールの中での生の音がいいと改めて感じさせられた。「絶えることなくうたう歌」「400歳のカストラート」などは、初めて聴く歌なのに心に染み入るとともに、今の音楽家すべての心の叫びのように響いてきた。コロナ禍で自粛でも音楽は必要だと改めて思った。当たり前だけど、大ホールの響きはとてもいい。

○「ローエングリン」の講座に参加して

今まで音楽だけしか聴いたことがなく、いろいろな映像を比較したお話を聞いたことが楽しかった。白鳥の(引く)舟に乗ってやってきて、ローエングリンと名乗って去っていく、ということだけしか知らなかったが、宗教対立、革命、放浪などワーグナーを取り巻く様々の出来事の中で生まれたローエングリンの複雑さを学んだ。しかし、ハンペさんの「リング」のようなオーソドックスな演出のものが初めて見る者にとってはありがたい。チャップリンがグラールのライトモチーフを独裁者の中で使っていたのは驚きだった。ワーグナーの音楽はじわじわと身近に入り込んでいると感じる。ローエングリンの作品には前奏曲や合唱などで、いろいろなライトモチーフが伏線として組み入れられていて、いつの間にか引き込まれてしまうという巧みさ、改めて驚かされている。また、合唱のパートわけも細かくされているとのこと、演奏会形式になっても3月のびわ湖ホールで素敵に響くことを楽しみにしている。

○コロナ禍の中で

感染の広がりが治まらない中、ホールの活動を再開していただき、大変うれしい思いです。メディアが進んでも、やはり生の響きにはかなわないと思います。まだまだ、誘い合って出かけることはできませんが、これからも、たくさんの演奏に触れていきたいです。

_____カポータ 2020年を振り返って_____

_____23期 吉田 瑛_____

_____コロナ禍の_____の中で_____

報道が2月頃から身近に感じる
日が続き広報を置きせて頂いて
いるコメン等 人の出入りが少なくなり
5月頃から新しくフィットネスに置きせて
頂き送付して頂いている案内等手を取っ
ている状態です。 平常に成れば従来通
り見えて頂ける様になり急ぎを折るばみ
りの日々です。

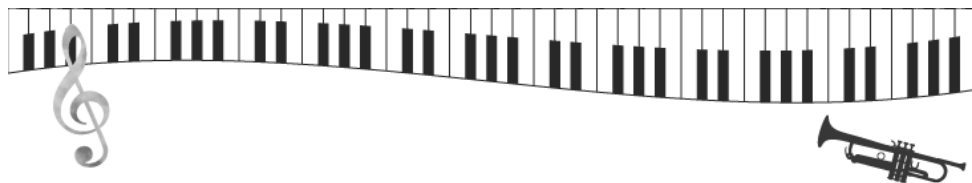
この一年は、新型コロナウイルスの影響で、様々な芸術・音楽活動も自粛をせざるを得ない中、びわ湖ホールスタッフの方々のご尽力のおかげで、いくつもの公演や文化講座等に参加させていただくことができて、本当にありがたく思っております。また、外出自粛や日常生活での緊張状態が長期にわたって続く中、私自身、音楽がひとに与えてくれる喜びや活力を改めて認識いたしました。

とりわけ 7 月 26 日の特別公演「沼尻竜典 日本合唱音楽セレクション～びわ湖ホール声楽アンサンブルとともに～」では、久しぶりに生演奏に触れることができた喜びや、その歌声の素晴らしさへの感激で、涙があふれました。

このような感動が一人でも多くの方に届けられるよう、私も、サポーターとして少しでもお役に立つことができれば…と常々考えております。ただ、実際は、びわ湖ホールでの催しをご案内するという基本的な活動にとどまっております。特に現在のように人と人との交流が制限される中では、活動の幅を広げることも難しく、残念に思っております。

一方で、ある友人にはびわ湖ホール見学ツアーをきっかけとして、びわ湖ホールとの接点を深く持つてもらうことができました。これまでその友人に対しては、催しのご案内にとどまっていたましたが、一緒にツアーに参加してもらったことで、びわ湖ホールの素晴らしさに感激され、後日親子で会員となられました。また、その方から新たなご友人にその輪が広がったとも聞いております。

そのほか、定例会グループにも所属しておりますが、コロナ禍において、定例会そのものの開催も 12 月まで見送られており、歯がゆい思いをしておりました。そんな中、12 月 13 日に開催された第五回定例会（実質的には第一回定例会）において、「私の一枚」のコーナーで発表をさせていただきました。皆様の発表や講演などから多くのことを学ばせていただいており、状況の許す限り、今後も積極的に活動してまいりたいと思っております。



多くの人にびわ湖ホールの素晴らしさを伝えたいと劇場サポーターになって2年が過ぎました。世界中が深い悲しみや苦しみに襲われた1年でしたが、こんな時だからこそ音楽を通して地球上に、日本に、笑顔の輪が広がっていくことを、そしてその先に明るい未来が続いていくことを祈っています。

私自身、万全の対策と慎重な行動をとることを心がけながら、昨年後半から次のような講演を楽しむことができ、音楽の持つ癒しの力と人との繋がり of 素晴らしさを実感しました。

九月	新しきチェロ煌めき 上村文乃 沼尻竜典(ピアノ)
十一月	マタイ受難曲 本山秀毅・びわ湖ホール声楽アンサンブル
十一月	葵トリオピアノ三重奏 ベートーベン生誕 250 年
十二月	華麗なるオーケストラの世界 ハイドン×モーツアルト×ベートーベン
一月	オペラへの招待 「魔笛」

公演が再開されるまでの準備、決断にはどれほどのご苦労がおりだったことでしょう。びわ湖ホール劇場の方々と出演者の方々の並々ならぬご尽力のおかげで、こうやってまた講演会に足を運ぶことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。映像を見たり、音楽を聴いたり心 of 栄養を満たして、笑顔が広がって欲しいと願います。

また今回企画「ワーグナー・ゼミナール」にも初級編3回、上級編3回参加し、オペラ「ローエングリン」について学びました。これまでは深い知識もないままワーグナーのオペラを舞台や映像で楽しんでいたのですが、今回のゼミナールで彼の人生を取り巻く人々、思想、社会が彼の作品に深く影響を与えたことなどをわかりやすく講義していただき、大変勉強になりました。これからますますワーグナーの作品に触れることが楽しみにになりました。先生方に厚くお礼申し上げます。

コロナ禍にあっても1日1日を大切に、生活の中に音楽を取り入れながら心も体も健康に過ごせますように。びわ湖ホール劇場サポーターも3年目。皆様と共に笑顔で広報活動に役立ちたいと思っています。今度ともどうぞよろしくお願いいたします。



この一年は新型コロナ禍のためステイホームとなり出かけることが殆ど出来ないような耐え忍ぶ全く予想もしない状況となりました。 家族が基礎疾患を抱えているため行動は自ずと制限せざるを得ないのです。同じような状況の方がサポータの中には多くもいらっしゃることでしょう。

2020年3月 ワーグナーの「神々の黄昏」を youtube での配信を観賞、2021年1月びわ湖ホール オペラへの招待 モーツァルトの歌劇 「魔笛」 をストリーミング配信で観賞しました。このような配信も演奏会の楽しみ方の一つとしてそれなりに意味あるものだと実体験しました。

自身の音楽活動としては、2020年5月京都コンサートホール Sing for peace KYOT02020 コーラスフェスティバル中止によりリモート演奏で参加、歌っています男声合唱団も対面練習中断が続き オンラインでの練習などなんとか音楽と縁をきらないように工夫してきました。

サポータとしてまともな動きは出来てないのですが、びわ湖ホール Stage、びわ湖ホール公演スケジュール、公演チラシなどをテニス仲間、卓球仲間、よし笛仲間、地元近江八幡のウオーキング仲間などあまりびわ湖ホールへ行ってない方に渡したりしてきました。でも私自身がステイホーム実践のため演奏を聴きにいくのを抑制してきましたので遠慮しながらの配布となりました。

今のところ元気にしていますので、早く当たり前の日常が戻りまともな活動が出来るようになることを願うばかりです。

波乱の1年（劇場サポーター 2020年度 活動報告）

24期 川端 正晴



1.活動内容

(1)PR 活動

ホールから毎月送っていただく広報物はほとんど配布できませんでした。大変申し訳ありません。唯一できたPRらしいことは、私が参加しているオペラ愛好サークルの会報に、滋賀県の文化政策への取り組みの素晴らしさを紹介するとともに、公演再開にこぎ着けたびわ湖ホールへの応援メッセージを掲載することによって、滋賀県およびびわ湖ホールをPRさせていただいたことでしょうか。

(2)サポーター通信「ハルモニア」

昨年度から引き続き、微力ながらハルモニアの編集作業をお手伝いさせていただきました。コロナ禍でサポーター活動の中止や縮小が余儀なくされる中、大半がテレワークで作業でき、ほぼ例年どおりハルモニアを完成および発行できたことは大きな喜びです。



(3)交流会活動への参加

行事が大幅に縮小されたことは残念でしたが、実施されたイベントにはすべて参加し、また第6回定例会では「ローエングリン」解説を担当させていただきました。数少ない貴重な定例会にもかかわらず、発表の機会を設けていただいたことに感謝いたします。

(4)劇場サポーターへの勧誘

クラシック音楽を愛好されている方とお会いする機会があり、複数の方に劇場サポーターへの参加を呼びかけました。その方がサポーターに応募されたかは不明ですが、今後もサポーターの輪が広がって活動が活性化することを期待しています。

(5)近江の春 びわ湖クラシック音楽祭

劇場サポーターのご縁により、昨年の「近江の春音楽祭」で歌劇「ジャンニ・スキッキ」のエキストラ(死体役)を仰せつかりました。ただ、コロナの関係で音楽祭は中止となり、自分にとって一生に一度の貴重なチャンスだったので、とても残念でした。

2.感想

劇場サポーター活動への参加は、趣味を同じくする人たちとの出会いと交流が最大の楽しみです。コロナ以前に出会って面識がある方々はマスク姿でもほぼ誰かわかるものですが、コロナ後に新たに出会った25期の方々とはマスク姿だけの対面。このままずっとお互いの素顔を見ることがないのかと思うととても不思議な気分。そんなことを感じた1年間でした。

今後の劇場サポーター活動が例年どおり実施できることを強く願っています。



3.反省点と今後の抱負

サポーターの特典を享受する一方で、今年度もPR活動が不十分だったと反省しています。次年度はもっと積極的にPRしていきたいと思っていますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

思いもかけなかった新型コロナ・ウイルスの感染拡大。びわ湖ホールで予定されていた公演が次々と中止や発売延期の発表に追い込まれ、本当に残念でいたたまれない思いでいっぱいでした。出演者や公演関係者の方々、そして何よりもびわ湖ホールの皆さまの無念さや先の見えない不安は、一体どれ程のものだったか想像するに余りあります。

あわや幻になるかと思われた「神々の黄昏」の公演。いち早く無観客での上演と無料ライブ配信、DVD（後に BD）の制作・販売を決断・実行されたことで、世界中から予想をはるかに超えた多くの方に公演を楽しんでいただくことができました。個人的には、会場で鑑賞できなかったのがとても残念でしたが、自宅でお茶やお菓子を脇に置いてライブ配信を鑑賞し、SNS で随時発信されるホールの方のおちゃめなアナウンスや同時に観られている方々の感想やメッセージを読みながら、共に感動し、笑い、涙するという新しい鑑賞スタイルを発見。気づけばパソコンの前で目いっぱい拍手を送りながら、ブラボーを叫んでいました。

びわ湖ホールでは7月より公演が再開される運びとなりましたが、不要不急の外出自粛、三密を避けるようにとのお達しがある中、お誘いの声をかけるのはさすがに憚られ、サポーターとしての活動は、専ら自らが会場に足を運ぶことに徹しました。

入口ではいつも館長さんはじめホールのスタッフの方々が飛びっきりの笑顔で迎えてくださり、ホワイエに歩みを進めれば、眼前に琵琶湖と比良・比叡の山並み、遙かに伊吹山と雄大な素晴らしい景色が広がります。びわ湖ホールならではのアットホームな温かさに触れ、居心地の良い空間に身を委ね、美しい演奏を心ゆくまで味わうことのできる贅沢なひととき。このコロナ禍、一体どれ程心癒されたことでしょう。

公演再開とともに、いくつかの公演ではライブ配信やアーカイブ配信も始まりました。ホールにはまだちょっとという方や遠方の方にも案内して楽しんでもいただけるようになり、また実際に鑑賞していながら、見落としていたことが結構あることをアーカイブ配信で気づいて感動を新たにする場面もいくつか。オペラなど、今後もこういう楽しみ方はありだなあと改めて思いました。

先日、次年度の公演スケジュールが発表されました。この時の喜びはもう言葉になりません。ホールの皆さまに心から感謝申し上げます。まだまだ大変な状況が続いていますが、どうぞ全ての公演が無事開催されますように。サポーターとしての準備は整っています。一日も早くこの混乱が収まることを願ってやみません。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

24 期 船越 千明

PR 活動

以前はサークルの仲間などにチラシをお渡しする機会がありましたが、今期は新型コロナ禍でサークル活動なども休止になり、ほとんどお渡しする機会がありませんでした。ウィズコロナが暫く続くのであれば、配付の仕方についても、画像化してメールに添付するなど、少し工夫が必要と思いました。

講座・セミナーの受講

魔笛の稽古（KHP）を見学させていただきました。
ピアノでの舞台稽古を実際に見るのは初めてで、大変興味深いものでした。

感想

開場前のメインロビー、幕間のホワイエ、そしてロビーコンサートなど、びわ湖ホールは皆さんの社交の場でもありましたが、新型コロナ禍でその集う場が無くなり「びわ湖ホールロス」の一年でした。
今後、ウィズコロナやアフターコロナで新しい生活様式がどのように変わっていくかわかりませんが、みなさんが集える場所としてのびわ湖ホールが早く戻ってきてほしいと思います。また、劇場サポーターとして何が出来るかも考えたいと思います。

感謝

コンサート自粛要請での「神々の黄昏」の無観客上演、ユーチューブでの配信、その後の色々な公演の実施など、スタッフの皆さんのご苦勞は計り知れません。末筆ながら御礼を申し上げます。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。」(鴨長明『方丈記』)

これまで当たり前と思ってきたことがそうではなくなり、世の中に変わらないものなど何もないのだという「無常観」を強く感じる年だった。どこに行ってもソーシャルディスタンスが求められる日常。不要不急の外出は制限され、人と人との繋がりまでが断ち切られたようで不安がつのった。在宅勤務となり、職場の飲み会や親しい友人と会食する機会は激減した。楽しみにしていた公演や講座も中止となり、舞台芸術を楽しむことが困難な時代となってしまった。

ホール企画の講座にはできるだけ参加した。感染症対策のためにびわ湖ホールの方々が多くのご苦勞をなさっていることを知った。これまで舞台芸術に関わることは不勉強で来たため、講座で聞く話はどれも興味深く、大人になってから学ぶことの楽しさを味わっている。びわ湖ホール劇場サポーター制度について職場で話していたら、フルートを嗜んでおられる先輩が興味を持って下さったのでお誘いした。変わりゆく中で気づいた「新たな楽しみ」もある。これまでは敬遠してきたインターネットが急に身近なツールとなり、思いがけずワーグナーの『神々の黄昏』もネット配信で鑑賞させていただいた。若者にびわ湖ホールを宣伝するにはインターネットは効果的だし、今後はサポーター活動にも取り入れていけたらと思う。

「いつもびわ湖ホールのパンフレットを入れてくれてありがとう。今はコロナ禍で出掛けられないから、びわ湖ホールのパンフレットを見ることが楽しみなの。」近所の奥様からお礼を言われた。公演について思いを馳せるのは楽しい。『魔的』のチケットが届いた日からのワクワク感は何とも言えなかった。そして当日の高揚感と、舞台が終わった時のホール全体を包む一体感の本物の舞台ならではの醍醐味である。

変わりゆく生活様式の中で、これからも音楽を愛する人たちと共に音楽に親しみ、触れ合っていきたい。そして新たな手立てを積極的に取り入れながら、これからも変わらずびわ湖ホールを応援し盛り上げていきたいと思う。



来年度こそはという思いで

第25期 岡田多江子

2020年早春、前より参加させて頂きたいと

思っていた劇場サポーターに選出されました。

活動を大変楽しみにしていましたが時はコロナ禍に突入。公演も人との交流もほとんど失われた

1年でした。ステイホームと呼ばれる中つくづく

思ったのは人には芸術が必要、不要不急のものではないという事です。

来年度は様々な公演が予定されているので

失達のサポーターの方々のお話を伺いながら

劇場サポーターとしての活動が多くできればと

思っています。びわ湖ホールと舞台芸術の

素晴らしさがより多くの人に届けられるように。

総括： もう少し出来たのではとの反省は残ります。コロナ禍での初年度だったので、さあ一やるぞと張り切って 3 月にスタートを切ったのに、すぐに先が見えなくなり沈んでしまい、9 月になってやっと先が見え出して、12 月頃からは再度気持ちを切り替えて動き始めています。反省の上に立って、2 年目の活動に励みたいと思っています。

活動：

- ① **チラシ配り**を春先に積極的に始めたものの、公演の変更などがあつたりして、またチラシに手が触れることによる感染リスクからもすぐに自信もって配れなくなりました。秋口より目の届く範囲に限って少しずつ再開しました。
- ② **ストリーム配信**が、その内盛んになり、びわ湖ホールもそうですが内外からも興味深いものが多数紹介されて、合唱団の通信網で広報したりしました。
- ③ **コラムの活用**として、合唱団の機関紙（月刊）に「音楽への誘い」として、公演の紹介・反響などの記事を 2～3 人で投稿しあつて、自粛期間中の慰めとして、音楽が生きるようにしました。
- ④ **公演**が秋口より 1/2 観客での再開がなされて、関係する皆さんの沢山の工夫の中で途切れることなく継続され出して、音楽っていいな、やはり劇場で聴く生音っていいなと仲間内で感想を言い合えるようになりました。
- ⑤ **研修の受講**については、コロナのせいもあり、また、そもそも春先のオリエンテーションをしっかりと消化出来ていなかったのが疎かになっていましたが、12 月になってやっと、周辺の勧めもあつて参加できました。2 月 6 日のワーグナー講座などは興味津々でした。
- ⑥ **自主活動**としては、ハルモニアに求められての記事投稿や定例会でのオペラ勉強会への参加位でした。皆さんと交流する機会が少なく、顔見知りとなれなくて終わりました。せめて挨拶ができて失礼のないようにはなっておきたいと思っております。

反省と今後の抱負： コロナの中でももう少し出来たのではとの反省に立って、次年度は、応募時の初心に帰って、びわ湖ホールのために、仲間のために、延いては自分のために活動と研鑽を積みみたいと思っています。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

第 25 期 坂上孝子

サポーターになって一年。

新型コロナウイルス感染症の為「不要不急の外出は控えて」と、自粛生活が叫ばれる一年でした。

広報物は数人の方にお渡ししたくらい(8)。サポーター交流会には一度だけ出席させていただきました。

コロナ禍の大変な状況下開催して下さった、ベートーヴェン生誕 250 年記念のレクチャーコンサートや室内楽、狂言を鑑賞し、自粛生活で疲れ気味の身体に元気を戴きました。このような時だからこそ音楽芸術は必要不可欠な「大切なもの!」、痛感いたしました。

開催して下さった皆様方に感謝致します。

また「ハルモニア」や「らくらく連絡網」でいろいろな情報を発信して下さった皆様方、ありがとうございました。お会い出来る機会が殆ど持てなかった中、お仲間に入れていただけた事を実感出来ましたし、良い勉強をさせていただきました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

劇場サポーター活動記録 25 期 鈴木由利子

びわ湖ホールの手ポーターになつて1年がたちました。同時にサポート会員にもなつたので、ホールに足を運ぶことがたびたびとなり、行き帰りに琵琶湖の風景を楽しむことが出来て、本当にしあわせなことです。チラシの配布は、音楽愛好家の仲間に渡したり、グループラインに添付したりいたしましたが、折からの外出制限で、あまり結果が見られなくて残念です。

京都コンサートホールの25周年記念の合唱団にも参加しておりましたが、この活動も中止となり、音楽との触れ合いは、びわ湖ホールのマタイ受難曲までの空白となりました。本山氏の熱い解説も心打たれました。

オペラ講座やワーグナーゼミナールはこの渴望に恵みの雨でした。特に伊東氏の講座で、全ての歌詞を示して、ドイツの歴史までの講義に感銘を受けました。魔笛のゲネプロで、指揮者の阪さんがピアニストと序曲を楽しく連弾されるのも感動しました。ローエングリンが演奏会形式と少し残念ですが、作り手の熱い思いを感じたいと思います。

これからも音楽の楽しみを伝えていきたいと思ひます。

■活動の内容

- ・びわ湖ホールの美しいロケーション・公演や活動のすばらしさや魅力を会社メンバーに紹介し、親しい友人には、劇場サポーターとなって舞台芸術を通じて楽しく学んでいることを話しています。
- ・ご近所には、びわ湖ホールの魅力を伝えながら「Stage」を配布して公演情報の宣伝をしました。
- ・「オペラ講座ローエングリン」「ワーグナー・ゼミナール」「ローエングリン プレトーク・マチネ」「稽古見学会」に参加しました。

■活動の成果

- ・コロナ禍の制約のためか、びわ湖ホールに足を運んでくれた知人がいないのが寂しです。2021 年度は友人と一緒に、びわ湖ホールを訪れる機会をつくりたいです。

■感想

- ・「オペラ講座ローエングリン」「ワーグナー・ゼミナール」「ローエングリン プレトーク・マチネ」を受講し、オペラの奥深い世界の魅力を教えて頂きました。
- オペラを通じて音楽・演出や演技・文学・ヨーロッパ史・思想的背景・美術を楽しみながら学んでいきたいです。

■反省

- ・行事が少なくなった事もあり、サポーターの皆様とお目にかかる事が出来なかったのが残念です。

■今後の抱負

- ・私自信が、「びわ湖ホール」や「びわ湖ホール劇場サポーター活動」を通じて楽しみながら成長していく過程を知人に紹介できればと考えています。
- ・舞台芸術のジャンルに足を運んだことがない人に、心を豊かにしてくれる舞台芸術の世界の楽しみ方びわ湖ホールの魅力を伝えたいと思います。

劇場サポーター活動記録

～令和2年度 コロナの1年を振り返って～

令和3年2月28日

25期 富田広和

2月のサポーター募集説明会・面接を経て4月からのサポーター1年生を楽しみにしていた矢先、新型コロナウイルスに対する第1回緊急事態宣言が4月7日に7都道府県、4月16日に全国に発出され、5月25日には解除されるも、その後通年において（いまなお）全世界で人と人との接触を制限せざる負えない社会になってしまいました。劇場サポーターとしても、私は4月から11月の間は活動停止状態でした。活動開始のきっかけを作ってくれたのは、11月6日フェスティバルホールで行われたウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を観覧したことでした。徹底した感染対策と関係者の熱意によりオーストリアと日本政府をも動かし来日公演が行われたことに感銘を受け、また勇気をもらいました（びわ湖ホールのエピソードではなくすみません）。

活動の内容

11月以降は感染対策をとった上で少しずつではありますが、次のような劇場サポーターとしての活動を進めております。

- ・チラシ等を配布物は興味がありそうなジャンルのものを友人・親戚などにお渡しする。その時びわ湖ホール友の会のサポート会員入会のメリット（稽古見学や公演の招待券）をさりげなくアピールする。
- ・びわ湖ホールの公演情報や自身が観覧した公演をSNS（フェイスブックなど）で情報拡散・発信する。

感想

- ・いままでオペラに全くなじみがなかった私ですが、YouTubeで予習して1月の「魔笛」観覧にのぞみました。オペラ歌手の方が、歌わず普通にセリフを言う場面になぜかほっとしました。また、「夜の女王のアリア」に圧倒されました。
- ・オペラ講座初級編受講は知識習得に役に立ちました。ワーグナー・ゼミナール上級編も受講しましたが、初心者の方に少し難しい感じでした。

今後

令和3年度もコロナの状況次第でどうなるかわかりませんが、令和2年度にはほとんど出来なかったサポーター間の交流の時間が今後は増えることを期待し、私自身も積極的に参加したいと思います。

イベント参加記録

2月9日 劇場サポーター募集説明会
2月21日 劇場サポーター面接
8月25日 ハルモニア2020秋第45号に自己紹介を寄稿
12月13日 まるっとステージツアー（自費）
12月13日 第5回定例会 ①作曲家を知ろう！ベートーヴェンの時代のピアノと現代のピアノ ②私の1枚
12月19日 オペラ講座ローエングリン初級編第1回「白馬の騎士」ローエングリンの秘密（招待*：劇場サポーターで無料招待）
12月20日 びわ湖☆アートフェスティバル BAF2020 堀内星良ヴァイオリン・リサイタル（自費）
1月24日 オペラ講座ローエングリン初級編第3回ロマンティック・オペラの音楽の神髄（招待*）
1月25日 「魔笛」稽古見学会（招待*）
1月28日 「魔笛」（招待**：びわ湖ホール友の会のサポート会員の特典で無料招待）
2月6日 ワーグナー・ゼミナール上級編第1回オーケストレーションから見る「ローエングリン」（招待*）
2月12日 山下洋輔スペシャル・ビッグバンド・コンサート2020+1（招待**）
2月14日 ワーグナー・ゼミナール上級編第2回作品成立事情とテキスト解説（招待*）
2月21日 ワーグナー・ゼミナール上級編第3回作品の全体像と思想的外形（招待*）
2月28日 第6回定例会 ワーグナー作曲「ローエングリン」レクチャー
3月2日 ローエングリン舞台稽古観覧予定（招待*）
3月6日 ローエングリン観覧予定（自費）

劇場サポーターを通してオペラとの出逢い

第25期 中西 美幸

もっとびわ湖ホールのこと、音楽のこと、オペラのこと等、知りたい、楽しみたいという想いで、2020年 近江の春でサポーターとして活動デビューしようと昨年2月応募しました。

しかし、新型コロナの影響で中止・自粛が続きびわ湖ホールへ足を運ぶこともなく月日経ちました。

それから後半になり案内を頂いたオペラ講座「ローエングリン」を受講してみて、映像や音楽を交えながら物語の内容を学んだことでオペラは楽しいんだなぁと感じました。

「魔笛」を鑑賞して、日本語上演でわかりやすく初めての私でもオペラを楽しめました。生の演奏の迫力、素晴らしい歌声、その美しさと魅力たっぷりの舞台に魅せられました。稽古見学もさせて頂けたのでサポーターに入って良かったです。

その後、ワグナー・ゼミナールを受講して、私には難しいですが更に奥深さを感じ、3月の「ローエングリン」がとても楽しみになってきました。

サポーターとして活動一年目は、全くオペラを知らなかった自分がオペラを楽しみにできるようになったことは大きな一歩が踏み出せたような気がします。

これからは自分自身が豊かになり、楽しめたこと、心癒やされたこと等、友人・知人に伝えていけるようになれば良いと思います。



劇場サポーター活動と新型コロナ

第25期 中西保之

劇場サポーターへの参加のきっかけは四大テノールです。「こんな楽しみ方があるんだ」と感じてコンサートに出かけているうちに、自宅から自転車で行ける場所にあるびわ湖ホールのすばらしさに気づき、劇場サポーターに参加することになりました。

劇場サポーター活動としては、近江の春からボランティアを含めた活動を開始する予定でしたが、新型コロナの影響ですべての予定が狂ってしまいました。また、在宅勤務が始まり、外出さえできない日々が続き、びわ湖ホールの紹介もなかなかできませんでした。その中で、所属する部署内のみですが、びわ湖ホールについて劇場サポーターの紹介やテレビで紹介されることなどを紹介することから始めました。その結果、反応していただける人も出てきて、限定的ですが、びわ湖ホールの紹介をできたかなと思っています。

在宅勤務は終日在宅のため運動不足になりますが、湖岸沿いを中心としたジョギングを再開し、びわ湖ホールが借景としているびわ湖のすばらしさを改めて発見するよい機会になり、びわ湖あつてのびわ湖ホールだなと感じています。

10月末から25期劇場サポーター紹介が始まり、現在はオペラの楽しさを自ら体験するため、オペラ講座にできるだけ参加して知識を増やしている段階です。

コンサートとしては、山本康寛新人賞研修成果発表リサイタルで四大テノールとは違う山本さんを見つけ、魔笛でオペラを生で鑑賞することの素晴らしさを体験しました。3月のローエングリンはとても楽しみです。

2021年度は新型コロナも落ち着くだろうから、近江の春から活動を開始したいと考えています。

劇場サポーター活動報告

25 期 二枝 誠一

サポーター1 年目は、いきなりコロナウイルスに出鼻をくじられました。上期はほとんどの行事が中止になり、できたことと言えば、毎月送付される演奏会の案内を仲間に渡すことくらいでした。幸いにも、下期になると行事が徐々に再開されましたので、できる限り参加させていただきました。

最初は、10 月 31 日のサポーターズ・サロンです。私にとっては、サポーター同士が顔を合わせる初めての機会でした。20 名ほどの方とお会いできました。いろいろな方がサポーターをやられていることがわかり、これからの活動が楽しみになりました。

次に、オペラ講座ローエングリンに 2 回、ワーグナー・ゼミナールに 3 回参加しました。講師の方々には造詣が深く、様々な切り口からローエングリンを掘り下げられました。改めてワーグナーの奥の深さを痛感するとともに、3 月 7 日の公演を楽しみにしています。

講座とゼミの合間に、魔笛の稽古見学会にも参加しました。サポーターしか参加できませんので、特筆すべきサポーターの特権です。まず驚いたのは、全員がマスクを着けて歌の稽古をされていたことでした。徹底したコロナ対策に感心しました。たまたま私が予約していた 1 月 29 日の公演に出演されるメンバーの稽古でしたので、とても参考になりました。

サポーター行事ではありませんが、8 月 6 日には、沼尻竜典先生のオペラ指揮者セミナーⅥに行ってきました。アマオケでオーボエを吹いていたので、沼尻先生がどういう指導をされるのか興味がありました。ソロやオケの動かし方、まとめ方などを勉強させていただきました。

1 年間を振り返って最も残念だったのは、コロナのせいでサマーパーティや季節のハイキングなどのレクリエーションと、わいわいコンサートが中止になったことです。10 月 31 日のサポーターズ・サロンに来られなかったサポーターのみなさまとはまだお会いできていません。2021 年度は親睦会の復活を楽しみにがんばっていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

劇場サポーター ・ 活動報告

25 期 堀川哲夫

2020 年度の活動内容を報告します。

1. 舞台芸術やびわ湖ホールが開催する公演の情報をチラシ配布等で友人等に伝える

活動: びわ湖ホールチケット情報「Stage」やチラシ等を 5 部入手し、近くにお住まいの方 2 名に配布、また、残り 3 部はレッスンを受けている音楽教室に配布

2. 舞台芸術に関する知識を深める(舞台芸術に関する講座を受講して、知識や関心を深める)

活動: 下記の講座を受講し、知識や関心を深めた。

- ① 「マタイ受難曲」レクチャー 2020 年 11 月 7 日(土)14:00～15:45 小ホール
- ② 第 1 回目の特別講座 2020 年 12 月 26 日(土)10:30～12:00 研修室
テーマ:コロナ禍を超えて改めて劇場の意味を考える～若者は劇場に戻ってくるのか
- ③ オペラ講座「ローエングリン」(初級編) コラボしが 21 大会議室
第 1 回 「白鳥の騎士」ローエングリンの秘密 2020 年 12 月 19 日(土)14:30～16:30
第 2 回 ローエングリンとは何者? 2021 年 1 月 17 日(日)14:30～16:30
第 3 回 ロマンティック・オペラの音楽の真髄 2021 年 1 月 24 日(日)14:30～16:30
- ④ ワグナー・ゼミナール(上級編)
第 1 回 オーケストレーションから見る「ローエングリン」
2021 年 2 月 6 日(土)14:00～16:45 びわ湖ホール リハーサル室
第 3 回 作品の全体像とその思想的背景
2021 年 2 月 21 日(日)14:00～16:45 コラボしが 21 大会議室

3. 勉強会や交流会などの自主活動に参加

活動: コロナ禍において交流会が開催できなかったことが非常に残念だった。唯一は、10 月 31 日開催「サポーターズ・サロン」への参加だった。

○第 3 回「サポーターズ・サロン」 テーマ「コロナ禍自粛中の生活、私の過ごし方」
2020 年 10 月 31 日(土)10:30～11:30 研修室

ポーター通信「ハルモニア」Vol.45 に自己紹介文を寄稿した。

4. ゴールデンウィークに開催される音楽祭に運営ボランティアとして協力

活動: ボランティアとして「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2020」(2020 年 4 月 25 日(土)、26 日(日))に参加希望を出していたが、残念ながらコロナ禍で中止となった。

(2021 年の 5 月 1 日・2 日の春の祭典には運営ボランティアとして参加したいと思います)

5. 感想 反省点 & 今後の抱負

コロナ禍で多くのイベント等がキャンセルとなり、活動できなかったのが非常に残念だった。交流会や近江の春への参加を楽しみにしていたが、2021 年度に期待したい。

劇場サポーターの参加希望の一つにオペラを学ぶこと。コロナ禍の中で開催された講座にはできる限り参加した。そして悟ったのは、ずぶの素人である私にとって難解かつ新鮮な未知の世界であるオペラ、それは歴史があり、哲学があり、思想などがあり、重厚な感さえ思われた。特に感じたのは、演出家によって舞台設定が大きく変わることであった。その自由さが、何年にもわたって上演され、その時代時代の人々に感激を与え、受け継がれてきた要因と思った。

それに講座を聞いて分かったことは、オペラ作者は、作詞・作曲家であるとともに、戯曲家、哲学者、思想家、宗教家、作家、政治家、芸術家、…、まるで芸術を超越した人だということ。

オペラは、単に音楽や歌声のみを楽しむものではなく、演技を、舞台装置や衣装を、照明を、台詞を、すべてを鑑賞するものなのですね。1 月 28 日に魔笛を鑑賞しましたが、これがオペラなのだ、これが舞台、衣装、オーケストラで、歌手で…と、理解するのに精いっぱい、私にはその楽しさが、わくわく感がいまひとつであった。それは何なのか。

オペラという別世界に踏み込んだ私、感激を得るには知識を深め、多くのオペラを鑑賞することが必要と思いました。今後、3 月 3 日にローエングリンの稽古見学、3 月 6 日に鑑賞をする予定。

以上 (2021.02.24 記)

1, 活動の成果

サポーターとしての活動としては、趣味のサークルでのチラシの配布と口頭での PR が中心的な活動。結果については数人の確認は出ています。世上コロナ禍のなか積極的なお誘いは出来ていませんが少しは成果があったかに思います。

2, サポーターとしての感想、思い

個人的に一番期待したことは「サポーター年間スケジュール表」にも基づく各種講座と定例会など、他のメンバーを知ること親しくなることを含め舞台芸術に関わる人達からの専門的なお話し、今まで知りえなかった事を聞くことでどれ程刺激を受けるのか音楽音痴の私がもしかしたら変われるかもしれない期待を持っていた。

残念ながら幾つかの講座や会合は中止になったのですが、特筆すべきは思い切って受講したローエングリン初級編でストーリーの概要を聞き 2 幕 3 幕と進むにつけ苦手なオペラ（演目によりますが）も以外に楽しめるかも・・・と考えが変わってきたのは自分でも驚きです。

3, 今後の活動とびわ湖ホールとのお付き合い

趣味の活動とボランティアも辞めることは出来ないのでびわ湖ホールのサポーター活動が大きく変化するかどうかは分かりませんが、少なくとも家族で演奏会に行く機会が多くなったのを報告しておくと共に、サポーター担当者の方々に感謝。



音楽、びわ湖ホールへの想い

第 25 期 吉野裕子

昨年 2 月、サポーター面接の日、部屋から窓一面に真っ青な空と琵琶湖が広がっており、その美しさに思わず心を奪われました。いつも、びわ湖ホールのロケーションの素晴らしさに感動します。素晴らしい音響と美しいロケーションを併せ持つびわ湖ホールは、日本、世界に誇れるホールだと思います。これまで、このホールでの多くのコンサートに足を運んできました。また、長年ピアノや合唱を指導してきた私には、びわ湖ホールはピアノ発表会や合唱の演奏の場でもあり、思い出深いホールです。いつもお世話になってきたびわ湖ホールの為に何かできたらとサポーターになり、活動を楽しみにしておりました。

ところが、コロナ禍で、楽しみにしていた近江の春音楽祭は中止、ボランティア活動もできず、定例会もなく、サポーターの方々にお目にかかれず、公演もほとんど中止という予想もしない事態になりました。大好きなびわ湖ホールに行くこともなくなりました。そもそも音楽活動自体が出来なくなり、私自身もピアノや合唱の指導も休まざるを得ず、これから、音楽は、音楽家たちはどうなっていくのかと、不安な日々でした。音楽は私の人生にとってかけがえのないものであり、不要不急のものではありません。悶々としながら、ピアノ指導はオンラインレッスンからはじめ、合唱も、マスクとソーシャルディスタンスを保ちながら少しずつレッスン出来るようになりました。久しぶりにピアノやコーラスのみなさんの優しい演奏を聴き、胸が熱くなり、心が癒されました。音楽は不滅です。しかしまだ、びわ湖ホールでのピアノ発表会は中止、合唱も、県や市の合唱祭、地域や学校などでの演奏も全て中止と、残念な事態が続いています。

このような状況の中で、びわ湖ホールも、関係者各位、演奏家の方々、大変な思いで過ごされてきたことと思います。しかし、びわ湖ホールは、この難局を乗り越えるために、様々な取り組みを、とても前向きにされてきたように思います。山中館長、土井様はじめ皆様のご尽力の賜物でもあり、少しずつ演奏会も再開されるようになりました。

私も、合唱指揮や合唱の指導を受けた本山先生のマタイ受難曲の演奏を機に、少しずつ演奏会に足を運べるようになりました。サポーターに登録させていただいたおかげで、魔笛のゲネプロ、ローエングリン、ワーグナーの講習会にも参加でき、少し前に向けた感じがします。音楽への、びわ湖ホールへの想いが高まってきました。2021 びわ湖ホールプログラムも拝見し、様々な公演が戻ってくるようで、楽しみです。ようやく、音楽の、そしてびわ湖ホールの春がやってきそうな予感がします。

サポーターとしての活動は、ほとんど出来ませんでしたが、毎月、コーラスの方々や音楽好きの友人達に stage を配っています。だんだん公演が増えてきて、皆さんも楽しみにしてくださっています。びわ湖ホールを愛するサポーターの熱い想いが、これからのびわ湖ホールの発展につながっていくのだろうと、私も音楽、びわ湖ホールへの想いを胸に、今年はしっかり活動できたらと思います。まだまだコロナ禍は心配ですが、早く、心おきなく、演奏を、そしてびわ湖ホールを楽しめる日がきますように祈るばかりです。

2020 年度 前菜

サポーター交流会 1 回参加
「トスカ」映画鑑賞。初めてのオペラの映画、面白かった～♪

メイン料理

「お城サミット」2 日間びわ湖ホールへ
公演を聴く姿が NHK で流れる♪何人かにテレビ見たよと言われる。マスクでもわかるんだ～

デザート

高嶋ちさ子コンサート
クラシックのハードルが低く、楽しめた♪

飲み物

2021 年度はもっと、ロビーで琵琶湖をみながらコーヒーを飲む回数を増やしたい。



コロナでも楽しい
一年でした♪

25 期

米田紀代子

2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な研修、企画、その他の活動が中止を余儀なくされました。（※印参照）

◎ 劇場サポーター舞台芸術基礎講座（全サポーター対象）

○ 第1回 基礎講座 ※中止

日 時 令和2年6月21日（日） 10:30～12:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

○ 第2回 基礎講座 ※中止

日 時 令和2年10月18日（日） 10:30～12:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

◎ 劇場サポーター舞台芸術特別講座（全サポーター対象）

○ 第1回 特別講座

日 時 令和2年12月26日（土） 10:30～12:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講義

標 題：コロナ禍を超えて改めて劇場の意味を考える～若者は劇場に戻ってくるのか

講 師：中 村 敬 一（オペラ演出、国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授）

内 容：コロナ禍の劇場の状況について、また、オペラ制作に関する特性、経費、欧州との比較を様々な面から解説。若者の行動心理を踏まえ、劇場に来てもらうための方策を探る。

○ 第2回 特別講座 ※延期（令和3年度 夏に延期）

日 時 令和3年1月16日（土） 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講義

標 題：ドイツ・ロマン主義美術と「北方」の風景美

講 師：仲 間 裕 子（立命館大学 名誉教授）

内 容：ドイツ・ロマン主義美術を中心に、仲間氏の研究の軌跡をたどる。

◎ 劇場サポーターオペラ稽古見学会（全サポーター対象）

○ 『魔 笛』稽古見学会

日 時 令和3年1月25日（月） 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

◎ 公演関連講座（直近3期のサポーター対象）

びわ湖ホールで開催する主催公演をより一層お楽しみいただくとともに、周囲の方々へ積極的に公演のPRをしていただけるよう公演関連講座研修を実施。

● オペラ講座『ローエングリン』（初級編・全3回） 令和2年12月19日（土）、令和3年1月17日（日）、1月24日（日）

● ワグナー・ゼミナール（上級編・全3回） 令和3年2月6日（土）、2月14日（日）、2月21日（日）

◎ 劇場サポーターメーリングリスト

びわ湖ホールからの事務連絡や自主交流会の案内、公演や講座の感想などの発信に用いています。

2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要

1. 定例会の開催

- 4月12日(日) オリエンテーション ※中止
(自主交流会紹介／年間計画紹介 ほか)
- 5月17日(日) ほか 第1回～第4回定例会 ※中止
- 12月13日(日) 第5回定例会 テーマ①「作曲家を知ろう!」…ベートーヴェン
テーマ②「私の1枚」…ベートーヴェンの1枚
(講師：3期 佐々木 浩一郎 氏)
- 2月28日(日) 第6回定例会 テーマ「ワーグナー作曲『ローエングリン』レクチャー」
(講師：24期 川端 正晴 氏)

2. サポーター通信「Harmonia(ハルモニア)」の発行

- (1) 4月 第44号(2020年春号)
- (2) 10月 第45号(2020年秋号)
(声楽アンサンブル新メンバー、25期サポーター自己紹介 ほか)

※サポーター通信「Harmonia(ハルモニア)」…

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」。1998年10月から1999年6月までに創刊準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として創刊号～第45号を発行しています。

3. サポートーズ・サロンの実施

- | | | | |
|-----|-----------|-----|------------------------|
| (1) | 6月6日(土) | 第1回 | ※中止 |
| (2) | 9月13日(日) | 第2回 | ※中止 |
| (3) | 10月31日(土) | 第3回 | テーマ「コロナ禍自粛中の生活、私の過ごし方」 |
| (4) | 3月13日(土) | 第4回 | 全体集会「今年度の活動を振り返る」 |

2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを活かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、「びわ湖ホール劇場サポーター」（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで開催する公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、ご友人に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する講座や研修を受講し、知識を広め関心を高めていただきます。
- 勉強会や交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は概ね100人、登録期間は1年間とします。ただし、1年ごとに継続の意思確認を行いますので、希望される場合は更新することができます。継続の意思確認は2月～3月頃に行います。

4. 2020年度活動

- (1) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・ 口コミやチラシ配布などによるPR活動
- (2) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・ 基礎講座 ※2020年度は中止
 - ・ 特別講座
 - ・ 公演関連講座
- (3) 自主活動
 - ・ 交流会などの開催
 - ・ 劇場サポーター通信（Harmonia）の発行

2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳

【期 別】

1期	2名
3期	4名
4期	1名
5期	1名
6期	5名
7期	2名
8期	3名
9期	4名
10期	3名
11期	2名
12期	4名
13期	5名
14期	3名
15期	4名
16期	3名
17期	3名
18期	6名
19期	3名
20期	3名
21期	7名
22期	8名
23期	19名
24期	9名
25期	18名

【居住地】

● 滋 賀 県

大 津 市	57名
草 津 市	4名
守 山 市	4名
東近江市	3名
彦 根 市	2名
米 原 市	1名
長 浜 市	2名
高 島 市	2名
湖 南 市	1名
近江八幡市	2名
蒲 生 郡	1名

● 京 都 府 17名

● 大 阪 府 13名

● 兵 庫 県 4名

● 奈 良 県 3名

● 香 川 県 1名

● 愛 知 県 2名

● 岐 阜 県 1名

● 福 井 県 1名

● 東 京 都 1名

【性 別】

男 性	54名
女 性	68名

計 122 名

2020年度「びわ湖ホール劇場サポーター」活動の様子



10月31日 第3回 サポーターズ・サロン



12月13日 第5回 定例会



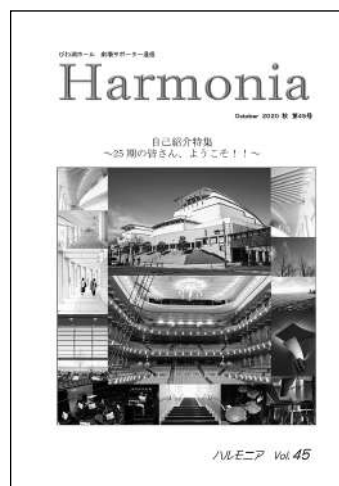
12月26日 特別講座 第1回



1月17日 オペラ講座『ローエングリン』
(初級編) 第2回



2月28日 第6回 定例会



サポーター通信「ハルモニア」第45号

発行 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

発行年月 令和 3 年 3 月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <https://www.biwako-hall.or.jp/>